つるさき

発行所
鶴崎神社
早島町早島2220
〒701-0304
TEL FAX 482-0097
URL www6.ocn.ne.jp/~turusaki/

荒　神　社（舟本）

摂末社巡拝⑧

当社は元禄元年（一六八八）汐入川汐留樋を小浜から舟本に移し、西堤を道として東堤の一部に荒神社を建立し、市場城山の稲荷神社から三寶荒神を勧請した。

祭典は春祭（五月第四日曜日）、秋祭（十月二十七日）、恵比須祭（一月十日）に行われており、舟本の氏子が参拝し、賑わいを見せる。

御祭神の火之迦具土神（ほのかぐつちのかみ）は防火の神として信仰の厚い秋葉神社（静岡県周智郡犬居町秋葉山鎮座）の御祭神である。古事記によると、伊邪那岐命（いざなぎのみこと）、伊邪那美命（いざなみのみこと）が次々に神を生んで、最後に生み出したのがこの「火の神」であり、伊邪那美命はそのために御陰（みほと）を焼かれて亡くなり、黄泉（よみ）の国へ行くことになる。

命は火傷をして苦しみながら「金の神」、「土の神」、「水の神」等を生んだ。これらの神々は冶金、窯業、農業における火の効用を示したもので、火之迦具土神の出現によって私達に生活の基盤を担う重要な恵を授けられたと言えよう。

昭和十一年大修繕を行う。平成十一年六月九日大氏神様である鶴崎神社に合併。

吉備津彦命

当社のご祭神の大吉備津彦命（おおきびつひこのみこと）は第七代孝霊天皇（Ｂ.Ｃ二九〇年一月十二日～Ｂ.Ｃ二二五年二月八日）の御子である。

孝霊天皇は、三人目の夫人に意富夜麻登玖邇阿礼比売命（おおやまとくにあれひめのみこと）を迎えられた。「日本書紀」では、この媛のことを倭国香媛（やまとくにかひめ）としている。

天皇とこの媛との間の第一子は夜麻登登母母曾毘売命（やまととももそひめのみこと）である。夜麻登は倭であり、登登は千千で、母母は百、曾は勲功（いそ）の「そ」で尊称である。

「崇神天皇紀」によれば、この母母曾毘売は内政に功があった旨が書かれているので、曾の尊称がつけれれたと思われる。なお「日本書紀」に、倭迹迹日百襲姫命（やまととどひももそひめのみこと）とあるのはこの人である。

第二子は日子刺肩別命（ひこさしかたわけのみこと）であるが、この神名の意味は不明である。

そして、第三子が比古伊佐勢理毘古命（ひこいさせりびこのみこと）である。「またの名を大吉備津日子命（おおきびつひこのみこと）という。」と「古事記」にはあるが「日本書紀」には、彦五十狭芹命（ひこいそさせりのみこと）、またの名を吉備津彦命（きびつひこのみこと）と出ている。

最後の御子は倭飛羽矢若屋比売命（やまととびはやわかやひめのみこと）であるが、この神の名称も起因が不明である。「日本書紀」には倭迹迹稚屋媛命（やまととどわかやひめのみこと）と出ている。

吉備津彦命は第十第崇神天皇（Ｂ.Ｃ九七年一月十三日～Ｂ.Ｃ三十年十二月五日）の御代に四道将軍の一人として、異母弟の若日子建吉備津日子命（わかひこたけきびつひこのみこと）と共に吉備国を統治するために派遣された。

崇神天皇の御代になると、神祇（神様）を敬って朝廷も安定して災害も無くなって来たが、朝廷の手の届かない遠国には、未だ大和朝廷の命に従わない者が多くあった。そこで天皇は即位の十年（Ｂ.Ｃ八七年）特に頑強に抵抗を続ける四つの国に皇族の中からそれぞれ四人を選んで四道将軍として将軍

吉備津彦命を祀る本殿

の印綬を授け、北陸に大彦命（おおひこのみこと）、東海に武淳川別命（たけぬなかわわけのみこと）、西道に吉備津彦命（きびつひこのみこと）、丹波に丹波道主命（たにはのみちぬしのみこと）を派遣して天下を鎮定する事となった。

命はその四道将軍の一人として西道（吉備国）に下られ、当時の有力な強賊（豪族）蟹梟帥（かにたける）を征伐して、この国を平定された。その後吉備国に永住し国の統治にあたり二八一歳の長寿を保ったとされる。

神道Q＆A

【質問】

神社には様々な鳥居が立てられていますが、何故鳥居を立てるのですか？

【答え】

私たちが神社にお参りをするとき、まず鳥居を目にします。鳥居は神社を表示し、また神社の神聖さを象徴する建造物ともいえます。鳥居は神社の内と外を分ける境に立てられ、鳥居の内は神様がお鎮まりになる御神域として尊ばれます。

また、特定の神殿（本殿）を持たず、山など自然物を御神体、または依代（よりしろ）としてお祀りしている神社の中には、その前に鳥居が立てられ、神様の御存在を現すものとして重視されています。

鳥居の起源については、天照大御神（あまてらすおおみかみ）が天の岩屋にお隠れになった際に、八百万（やおよろず）の神々が鶏を鳴かせましたが、このとき鶏が止まった木を鳥居の起源であるとする説や、外国からの渡来説などがあります。

鳥居は、その材質・構造も多種多様で、それぞれの神社により形態が異なります。一説には六十数種類の形態があるともいわれており、代表的なものとしては、鳥居上部の横柱が一直線になっている神明（しんめい）鳥居と、この横柱の両端が上向きに反っている明神（みょうじん）鳥居があります。当社の鳥居は明神鳥居です。このほか、形態では明神鳥居の横柱上部に合掌形の破風（はふ）のついた山王（さんのう）鳥居や、また朱塗りの稲荷鳥居など特徴的なものがあります。

起源や形態などさまざまではありますが、鳥居を見ると神聖さを感じるのは、我々日本人の共通した考え方ではないかと思います。

当社の鳥居（明神鳥居）

総代会で参宮

昨年十月二十九・三十日の一泊二日で当社総代十二名が伊勢神宮参拝を行った。

総代としては初めて全国の氏神様が本宗と仰ぐ伊勢神宮へ参拝し、神宮大麻奉斎の意義や神宮の奥深い祭祀を研修した。

今回は特に、神饌に供する米、塩、野菜、果物を作る神田や御塩殿や御園を見学し、外宮、内宮両宮の御垣内参拝を行った。内宮では、宮川権禰宜の案内により三時間に亘り境内や社殿の説明を受けながら、御垣内参拝を行い、神楽の奉納を行った。神社の本質を垣間見る有意義な参宮となった。

初詣に四千人が参拝

平成十六年の新春は太鼓の音と共に穏やかな年明けとなった。

境内では、特設テントで総代や氏子有志による紅白の餅つき、社務所では甘酒接待、拝殿では神酒が参拝者に振る舞われた。

また、「早島い草太鼓」の公演が初詣で賑わう境内で二回に分けて行われ、勇壮な太鼓の音に参拝者から大きな拍手が送られた。

一方、恒例になっている干支「折り紙」は、今年の干支である紅白の飛躍する猿が展示され、記念撮影の行列ができる程で、三ヶ日の終日賑わった。

境内で公演されたい草太鼓

諸祈祷・出張祭の案内

当社では左記により随時ご奉仕致しております

◆初宮詣・交通安全・厄除・安産・家内安全・当病平癒その他

◆地鎮祭・上棟祭・家移清祓・宅神祭等

ご希望の方は前もってご連絡下さい。

祭事暦

五月十五日（土）［午後七時］
　春季大祭宵祭（露店あり）
五月十六日（日）［午前十時］
　春季大祭【供膳祭】
七月三十日（金）［午後五時］
　夏越祭【輪くぐり祭】（露店あり）
毎月一日（午前九時）月次祭
※月次祭にお詣りの方は、拝殿にご昇殿下さいまして祭典に参列して下さい。